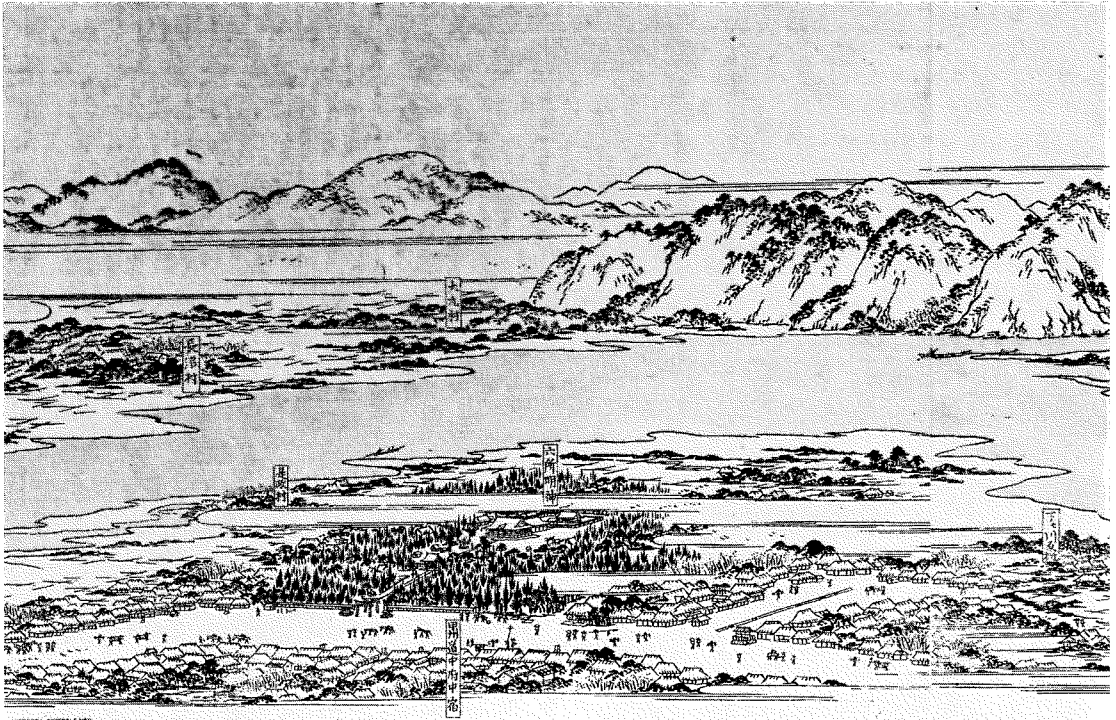


# あるむぜお

府中市郷土の森だより

No.7

al museo



調布玉川絵図

木版2色刷 弘化2年(1845)序  
府中の対岸関戸村(現多摩市)の相沢伴主ともぬしのスケッチをもとに長谷川雪堤せいていが描き、文は伴主自身が添えています。伝本の中にはこの木版刷に美しく筆彩を施したものもあります。

丹波から羽田まで140 km 近くにわたる多摩川沿岸の風景は、幕末の騒然たる世情をよそに、万葉の歌にあるように調布をさらした頃からの悠然たる流れを感じさせます。

## 武蔵台遺跡と最古の磨製石斧

およそ 300万年前に人類が出現して以来、人々は長い間、石や木・骨で作った道具しか持たない生活を送っていました。この時代を旧石器時代といいます。日本では、20万年前頃に大陸から人類が渡来して以来、1万2000年前頃に土器が使われるようになるまでを旧石器時代と呼んでいます。

多摩川の支流である野川流域には、この時代の遺跡が数多くあり、その調査は日本旧石器時代研究に大きな影響を与えています。

府中市の北端、都立府中病院構内にある武蔵台遺跡もこの一つで、調査によって約3万年前～1万5000年前の石器類が赤土(立川ローム層)の中から出土しています。

なかでも、立川ローム第X a、X b層と呼ばれる地表下約4mの地層から出土した石器類は3000点にも及びました。この地層は地質学の研究によれば、およそ3万年前に位置付けられます。従来、この時期の石器は、ほかの遺跡の調査では出土する数が少なく、様相が明らかではありませんでした。武蔵台遺跡出土の石器はこの空白を埋める「モノ」として注目されたのです。出土した石器は打製石斧、局部磨製石斧、

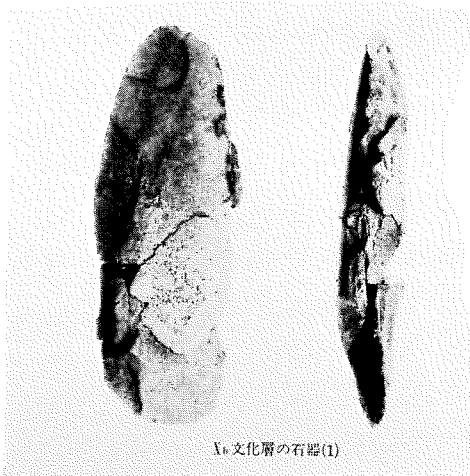
両刃礫器、片刃礫器、尖頭礫器、砥石、敲石、剥片石器と呼ばれるものです。このほかにも石器を作るときに生じた石屑が多く出土し、当時の石器製作の方法などを考える手掛かりを与えてくれました。

このなかで、打製によって成形したのちに刃部のみを磨いて作った「局部磨製石斧」の出土は特に注目されるものでした。一般に、磨製石斧は新石器時代の段階に伴うもので、旧石器時代には刃部を磨く技術はなかったとされています。日本では縄文時代が新石器時代の段階に相当しますから、それ以前には磨製石斧はなかったということになります。ところが、近年、日本の旧石器時代には確実に磨製石斧が存在することが判明してきています。武蔵台遺跡出土の局部磨製石斧もこの証拠の一つに数えられるわけです。特にこの資料は、約3万年前にあたる立川ローム第X a、X b層から出土しており、現在のところ日本最古の磨製石斧の一つであるわけです。

旧石器時代人は、氷河期の寒暖の繰り返しと火山が活発に活動する厳しい環境のなかを自然と共存しながら生き抜いてきました。今日、私たちが彼らの生活を推測する手掛かりは、遺跡から出土する石器などの道具であり、その出土する状態であるわけです。そのなかで、旧石器時代の主要な道具である石器の変遷するさまは、この時代の生産活動の発展を反映したものと考えられます。

したがって、3万年を経て今日に残された武蔵台遺跡出土の石器類は、その発展の過程を知るうえで欠かすことのできない「モノ」なのです。(F)

※本館展示の武蔵台遺跡出土品は複製品です。原資料は都立府中病院内遺跡調査会で所蔵しています。



X a文化層の石器(1)

局部磨製石斧

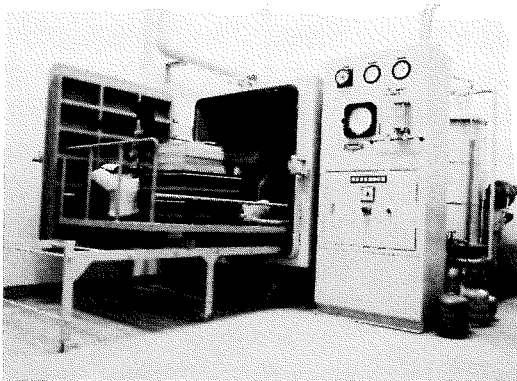
# 民具の整理②

前号では民具の整理1として、民具の水洗いについて紹介しましたので、次に水洗いされた民具が、どのように整理、保管されていくのかをご紹介します。

## ＝くん蒸処理＝

くん蒸とは、薬剤を使って害虫などを殺すことをいいます。民具に限らず博物館資料の受入れの際には、その多くはごみ、ほこりのほか、目には見えない害虫そしてカビが存在し、資料に悪い影響を及ぼします。これをそのまま博物館の保管庫である収蔵庫に入れますと、他の資料に虫やカビがとりつき、とりかえしのつかないことになってしまうのです。そこで水洗いをして十分に乾燥させた後、また水洗いのできないものはごみやほこりを払った後、くん蒸処理をされ、収蔵庫に入れられます。

さて郷土の森博物館にはくん蒸室があり、この部屋の中には臭化メチルという毒性ガスを使ってくん蒸する密閉型のくん蒸釜が設置されています。おおかたこの釜で間に合いますが、しかし民具の中には大きなものがあり、くん蒸釜に入らないものも多くあります。この場合には、専門業者に委託して1年間に数回、まとめてくん蒸を実施しています。このくん蒸の形態には



くん蒸釜

テントくん蒸と被覆くん蒸の2方法があります。郷土の森に復原された旧河内家住宅、旧越智家住宅については、茅材や竹簧子天井の竹につくキクイムシなどの虫害から守るために、1棟そのまま被覆くん蒸処理を実施しました。

## ＝資料台帳・資料カード＝

資料の整理にあたって最も特記されることに、資料台帳や資料カードの作成があります。民具をはじめ民俗資料は、まず民俗分類により分類別に台帳に記入されます。郷土の森の民俗分類では、文化庁編『民俗資料調査収集の手びき』を参考にしながら1)衣食住、2)生業(農耕、山樵、漁撈、狩猟、養蚕、畜産、染織、手工・製造、諸職)、3)交通・運輸・通信、4)交易、5)社会生活(祭祀・葬礼・講などの共有道具や共同施設、そして消防用具など)、6)信仰、7)民俗知識、8)民俗芸能・娯楽・遊戯、9)人の一生、10)年中行事などに分類され、そして1点(1組)ずつ資料カードに記入されていきます。このカードはいつ(受入年月日)、どこのだれさんから(提供者住所・氏名)といった事務記録に始まり、その資料の出生あるいは使用された状況など調査により知り得た情報を記録しておくもので、博物館にとって基本財産となる大事な仕事のひとつです。

| 民俗資料分類カード   |            |
|---|------------|
| 店名  | PT-100     |
| 品名  | 昭和15年製の... |
| 品番  | ...        |
| 数量  | ...        |
| 受入年月日   | ...        |
| 提供者住所・氏名  | ...        |
| 備考  | ...        |
| <p>※※※ 記録簿に記入 (小冊子) ※※※ 昭和15年製の...</p> <p>※※※ 民俗資料 (山樵) ※※※ 昭和15年製の...</p> <p>※※※ 品番 (山樵) ※※※ 昭和15年製の...</p> <p>※※※ 数量 (山樵) ※※※ 昭和15年製の...</p> <p>※※※ 受入年月日 (山樵) ※※※ 昭和15年製の...</p> <p>※※※ 提供者住所・氏名 (山樵) ※※※ 昭和15年製の...</p> <p>※※※ 備考 (山樵) ※※※ 昭和15年製の...</p> |            |
| 民俗資料部   | ...        |

民俗資料カード

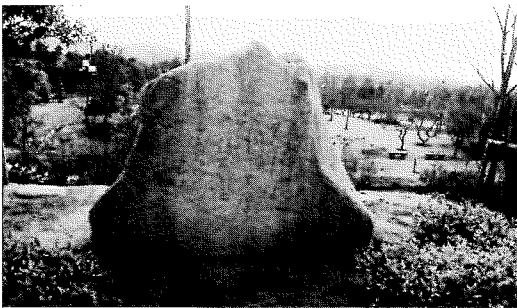
そして1点1点写真撮影をしカード裏面に貼りつけるとともに、実測され大事にファイリングされます。また資料には注記番号が付けられ、資料の散逸を防ぎ整理されるとともに、収蔵庫に保管され、展示その他の活用を待たわけてです。(G)

## 万葉集防人歌と堀辰雄 — 幻の万葉小説をめぐって 小野一之

昨年の秋、横浜（県立神奈川近代文学館）では堀辰雄展が開かれていました。「中世の隠者のような風流で優雅な生活者」でありながら、「近代の果敢な前衛的小説家」としての堀の生涯と芸術をたどりつつ、晩年の病床にあって構想を続け遂に書かれなかった「ロマン（本格的長篇小説）」に迫ることが展覧会のテーマの一つだったようです。(1) なかでも（ロマンの発展—「聖家族」から「万葉小説」まで）のコーナーに置かれていた「出帆」という万葉小説の構想を記したノートに目がとまりました。粗末な数枚の紙片に鉛筆書きされた文字は、「出帆」「天平二年」「小さな防人—春霞」「武蔵野の秋」などと読みとれ、この未完成の小説は、奈良時代の武蔵出身の防人の話であるらしいことがわかります。その時思い浮かべたのは、「赤駒を山野に放し…」という万葉集防人歌の一首でした。この歌を刻んだ万葉歌碑（府中市郷土の森所在）からは、ようやく色づいた「多摩の横山」が望めた季節でもありました。小稿では、堀のこの万葉小説の構想を通して、防人や防人歌のことに思いをめぐらせてみたいと思います。

まず、歌碑にある防人歌からみてみましょう。

赤駒を山野に放し捕りかにて  
 多摩の横山徒歩ゆが遣らむ  
 右の一首は、豊島郡の上丁棕椅部荒虫  
 が妻、宇遅部黒女（巻20—4417）



郷土の森の万葉歌碑 背景は「多摩の横山」

この歌は『万葉集』巻20に「天平勝宝七歳乙未の二月に、相替りて筑紫に遣はさえし諸国の防人等の歌」として出身国別に計84首が並べられているなかの一つです。防人については、諸説ありますが、奈良時代に北九州にあって対外的な防備にあたる兵士で、東国出身の農民があたりたとするのが通説です。(2) 遠く九州に赴く防人が、家族との別れの悲しみや故郷への思いを率直に切々と詠みあげた歌を、『万葉集』は数多く収録しています。武蔵国豊島郡出身の防人の妻が詠んだこの一首は、馬を放牧させてしまい捕まえることができず、旅立つ夫を徒歩で行かせてしまったことを悔んだものです。府中（武蔵国府）に集結した防人たちが、多摩川を渡り、多摩丘陵（「多摩の横山」）を越え、遠く九州へ向かっていった状況を彷彿とさせます。

堀の「出帆」ノートにもどります。このノートは、最も新しい堀全集で全文が翻刻されました。(3) これによると、20ほどの章に簡単なあらすじが付され、小説の骨子はほぼ完成していたようです。ただし「出帆」はその第一章の名で、全体の題名の明示はありません。東国諸国から落合った防人たちが天平2年2月難波津から筑紫に向けて出帆する場面（「出帆」）から始まります。主人公の「乎力良」という若き防人は、任地先で老防人の話などに導かれ、ある日海岸で水平線の彼方に「自分の魂が恋ひ求めてゐる国」の幻を見ます（「妣の国」）。後日、同僚の身代わりをかって出て嵐の中を対馬に向かい、途中遭難する（「荒磯」）という話になっています。物語の進行中、故郷を回想するモチーフ（「武蔵野の秋」「武蔵野の妻」「武蔵野」）が繰返しあらわれ、一方では死を予感するモチーフ（「古い挽歌」「老防人」「海の真昼」「妣の国」）も徐々に進み、ついに「小さき防人の死—荒磯」によって終結します。リルケの『レクイエム』や『万葉集』の一連の挽歌に感銘し、折口信夫の民俗学に影響を受けた堀の文学のなかでも、鎮魂的要

素の色濃い作品となっています。完成されれば、堀の代表的な小説の一つとなつたのではないでしようか。

ここで、堀のこの万葉小説の構想に至つたいくつかの背景を指摘してみます。「死んだ田達の国、イナヒノミコトが恋慕のあまりに波の穂を踏んで渡っていかれた国」「自分の魂が恋ひ求めてゐる国」を主人公が海の彼方に発見するところが、本作品のポイントとなりますが、これは明らかに折口民俗学の成果によるものです。(4) また、船上で防人の一人が「故郷においてきた妻を思ふために、昔の人が死んだ妻を傷んでうたった挽歌を歌ひ出し、これに対し他の防人たちが「いくら遠くに離れていても、それをこんな死んだ妻と一しょにするのは何か縁起悪」と思う場面があります。この部分は主人公の結末への行動の伏線として描かれていますが、「魂乞い」の行為を通じての挽歌と恋歌の分がちがたい関係に堀は着目しています。これも折口のしばしば説くところ(5)。

難波出帆の年を堀が天平2年(730)にした理由はわかりません。ただ、万葉集防人歌のほとんどが天平勝宝7年(755)であり、ともに東国の防人を廃止する政策の直前であることを指摘しておきます。東国防人は天平2年から9年(737)にかけて廃止され、その後復活し再び天平宝字元年(757)に停止されています。『日本霊異記』の防人説話も天平年間の頃ですが、堀の作品は別としても、『万葉集』と『霊異記』に伝わる防人文学の成立と、防人廃止に至る社会的動揺とは無関係ではないはず(6)です。

また堀は、防人の武蔵出帆を秋に、難波到着を翌年2月にしていますが、どうみても日数のかかりすぎです。平安前期の『延喜式』では武蔵から京(平安京)に上る日程を29日と規定しています。しかし堀にとって、郷愁の武蔵野とは、平安の歌枕や近世以来の「武蔵野図」のように、女郎花が咲き乱れ、尾花(ススキ)が揺らぐ秋をおいては考えられなかつたのでしよう。

主人公「乎刀良」の傍で故郷を思い男泣きを繰返す防人の名は「荒虫」、任地先で待っていた老防人の名は「与呂磨」です。どれも『万葉

集』に載る実在の防人名を借りていますが、「荒虫」はいうまでもなく先に引いた一首を作つた人物の夫の名です。堀はこの万葉小説を構想するなかで、「赤駒を…」の歌が常に念頭にあつたに違いありません。この構想の素材にしたと思われる、「東歌」と題した堀の研究ノート(6)の冒頭1ページにも、「放牧、多摩の野」としてこの一首だけを書き留めています。

しかし、堀が万葉小説を構想するなかで、防人を取りあげた最も大きな理由は当時の戦争ではなかつたでしようか。「出帆」のノートがいつ書かれたかはわかりませんが、日米開戦の年となつた1941年の堀のエッセイ(「十月」『大和路・信濃路』)では、別の万葉小説構想の意志が伺えます。肺結核を病み信州へ逃れた堀にとって、「その文学が軍国日本からの想像上の亡命にほかならなかつた」(7)としても、やがて軍靴の響きは堀の愛した信濃追分の地にも及んできたはずだからです。(8)

昨年の秋、すなわち1988年の秋は今にして思えば昭和最後の秋でした。「大君の命かしこみ」「醜の御盾と出で立ち、ついに帰らなかつた数多くの「昭和の防人」にとって、「激動の昭和」の感慨など思いもよらなかつたことだけは確かです。

註(1)中村貞一郎編『堀辰雄展』(財)神奈川文学振興会1988。

(2)岸俊男「防人考」(『日本古代政治史研究』塙書房1966)、直木孝次郎「防人と東国」(『飛鳥奈良時代の研究』塙書房1975)など。なお野田嶺志『防人と衛士』教育社歴史新書1980、は概説書の体裁をとっていますが独自の見解に貫かれています。

(3)『堀辰雄全集』第7巻下 筑摩書房1980。

(4)「此が国へ・常世へ」(『折口信夫全集』第2巻 中央公論社1965)など。

(5)「恋及び恋歌」(『折口信夫全集』第8巻 中央公論社1966)など。

(6) (3)に同じ。

(7)加藤周一「夕陽妄語—堀辰雄または亡命作家」(『朝日新聞』1988. 10. 21夕)。

(8)たとえば、日本戦没学生記念会編『第2集きけわだつみのこえ』岩波文庫1988、所載の松永茂雄

は詩人立原道造（堀辰雄の愛弟子）の友人で、書簡（1938年）は油屋旅館（堀ら文学仲間のたまり場）

や堀の作品に及んでいます。

## ＝最近の発掘調査から＝



### 形象硯

#### WANTED（懸賞首）

首から上につき生死？は問わず

詳しくは府中市京所武蔵国庁内武蔵国司まで

今回は少し珍しい遺物が出土しました。

府中市の遺跡は、武蔵国府に関わる遺跡です。このことから当時の国府に勤めていた役人も多く、筆記用具の一つである硯は他の奈良・平安時代の遺跡に比べて多く出土しています。しかし、その多くは転用硯と言って当時のお茶碗などを硯として用いたもので、自宅で字を練習するためなどに使用されたと考えられる硯の代用品のようなものです。今回は形象硯と言って、焼物で動物の形をまねて作った硯が出土しました。このような硯は奈良の都でも貴族の邸宅などで出土する程度で、下級官人の住まいや、役所内では見られないものです。

この形象硯は京王線府中駅北口で出土したわけですが、このことからこの付近に当時の有力者の館がある可能性が考えられてくるわけです。出土した正確な場所は、最近移動した京王バスの駐車場です。この付近は、以前にも南へ20数mの調査地区から風字硯（現在の硯に形が以てあり、焼物で作られた硯）の破片が出土してい

ますし、少し離れますが博物館に展示されているどこも壊れていない風字硯もここから150 mほど南東の調査地区より出土しました。このように付近から少量ながら良好な硯の資料が出土しており、この付近に上級官人が住んでいた可能性は十分に考えられます。

そして、今回の形象硯の出土により、この官人が上級官人でも相当の地位にある可能性がでてきたわけです。今後、その住まいが正確にどこにあるか明かとなって、以前出土した「大目館」と墨書きされた土器（大目は官職名で都から赴いた役人のことであり、土器がこの官舎のものであることを表すために書かれている）のように、その住人の官職名などが明かとなる資料も出土すれば良いのですが。

なお、形象硯について先ほど動物といいましたが、その動物が何であるか、残念ながら首から上が出土していませんので明らかではありません。他の出土例を見ますと、鳥、亀、羊などの事例がみられます。今回のものは足の形や非常に丸みを持っていることから、私自信は亀ではないかと考えているのですが、はたしていかがなものでしょうか。首が甲羅の文様などを描いた蓋などが今後見つかったら良いのですが。（府中町・京王バスターミナルの調査から 荒井）



平城宮出土の形象硯

3/24 ▶

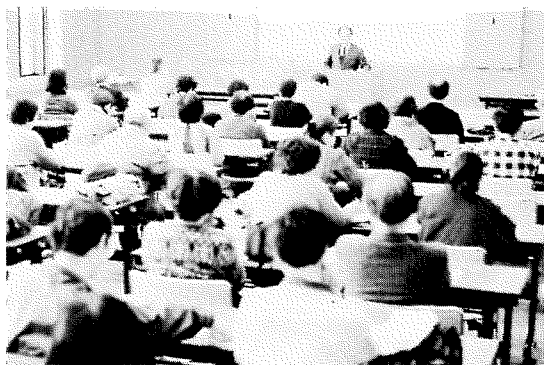
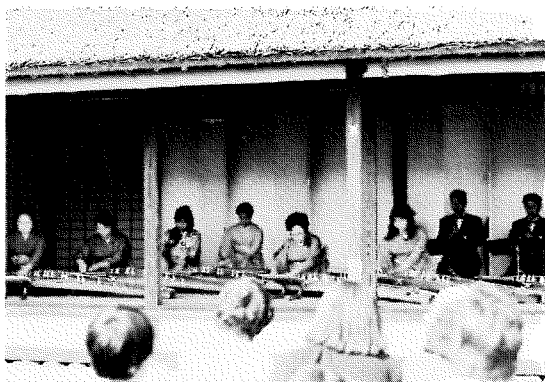
**ボニー・ジャックス公演**

今年で30周年をむかえるボニー・ジャックスが堂々、郷土の森に初見参！「唱歌の集い」の一環として、昔なつかしい童謡などを含めて約15曲を熱唱してくれました。来場のお客さんもステージに上がって、ボニーと共に歌う一幕もあり、場内は時を忘れて盛り上がりを見せていました。



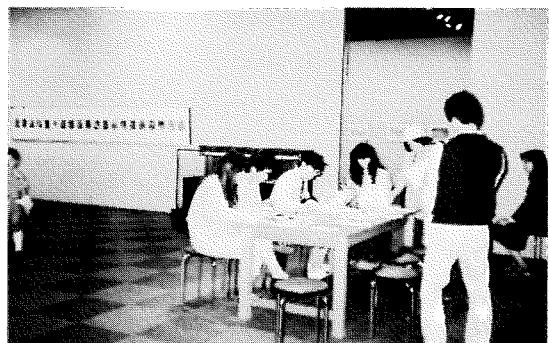
**2/19~3/26 郷土の森梅見のつどい▶**

今年の梅は開花が早く、「梅見のつどい」の始まる2月19日にはもう満開！ 園内では梅の香を楽しみながら、野立てのお茶を堪能する人、琴、尺八の演奏に酔いしれる人でにぎわいました。博物館の梅あらがると展も好評でした。



◀ **2/26・3/5 梅講座**

恒例の梅講座です。今回は梅に含まれる毒の話と万葉集に出てくる梅の歌をテーマに計2回。興味深い話題が目白押しで全員納得！



**3/19~4/9 二俣英五郎絵本原画展▶**

絵本「府中むかしばなし」の3冊が完成したのを記念して開かれた展覧会です。民話中の人々の表情、ファンタジックな狐や狸や狼たちの活躍、また広島空を舞う鳩の姿、どれも優しいタッチの中に訴えるものがあり、絵本で見るとはまた違った楽しさを味わえたことでしょう。

あれこれ

## 星空散歩—北斗七星のはなし—

春の夜空を見あげると、北の空高いところに「ひしゃく」の形に星が並んでいる北斗七星が目につきます。この北斗七星、世界各地で神話となって語りつがれています。

北斗七星にまつわる神話を大きく分けると、北斗七星を熊に見立てる人々、車と考える人々、人間や他の動物と考える人々の3種類があります。熊と考える話としては、空をめぐる親子熊の話（ギリシャ）、天に投げられた大熊・天の大熊狩り（北アメリカのインディアン）などがあります。また車と考える話には、荷車（バビロニア）、大神オシリスの車（エジプト）、アーサー王の車・農夫チャールズの手車（イギリス）北斗神君の帝車（中国）などがあります。その他、7人の和尚、北斗と豚（中国）、キリストと車引き（ドイツ）、いびつな家（韓国）など変わった見方をする話もあります。一方、日本でもアイヌ民族の間で、この北斗七星を熊に見立てた神話が伝わっています。

このように同じ星を眺め、同じような神話が異なる地域に存在するというには、何か不思議なものを感じます。

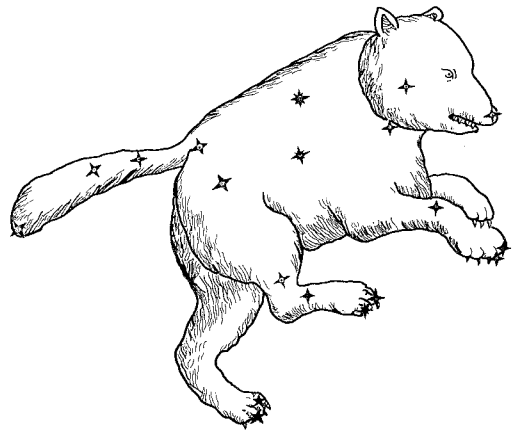
ではここで、たくさん伝わっている神話の中から天に投げられた大熊の話をご紹介します。インディアンの間では、夜になると森の木が話をしながら歩きまわると信じられていまし

た。ある闇夜の晩、1匹の大熊が森の中で話しながら散歩している木々と出会

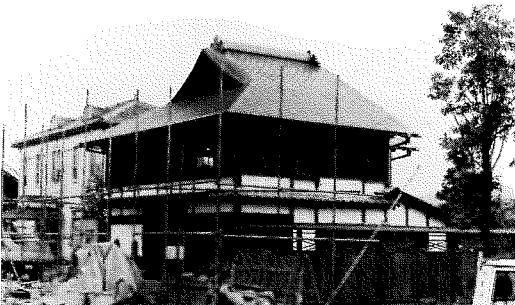
いました。そして、まごついている熊の前に森の大王のカシの木が現れ、いきなりしっぽをつかんだのです。びっくりした熊は逃げようとして暴れました。熊が暴れたので大王は、かんしゃくを起こし熊の尾を持って空に投げってしまったのです。そのため熊はしっぽが伸びたまま星にひっかかり、そのまま星座となったといわれています。

北の空に美しく輝く北斗七星。その美しさにひかれ、昔の人々はたくさんのお話を思いつきました。これからの季節、北斗七星を眺める機会も多くなりますが、皆さんは何を連想しますか。

(K)



公開、間近か！



旧府中郵便取扱所

旧府中郵便取扱所(旧矢島家住宅)と府中宿の  
大店(旧田中家住宅)の復原工事および多目的公園の築造を進めてきましたが、間もなく完成し、郷土の森の全施設が公開の予定です。

あるむぜお 第7号  
al museo イタリア語  
“博物館で”“博物館にて”の意  
発行年月日 平成元年3月31日  
発行 府中市郷土の森  
〒183 東京都府中市南町6-32  
☎0423-68-7921